

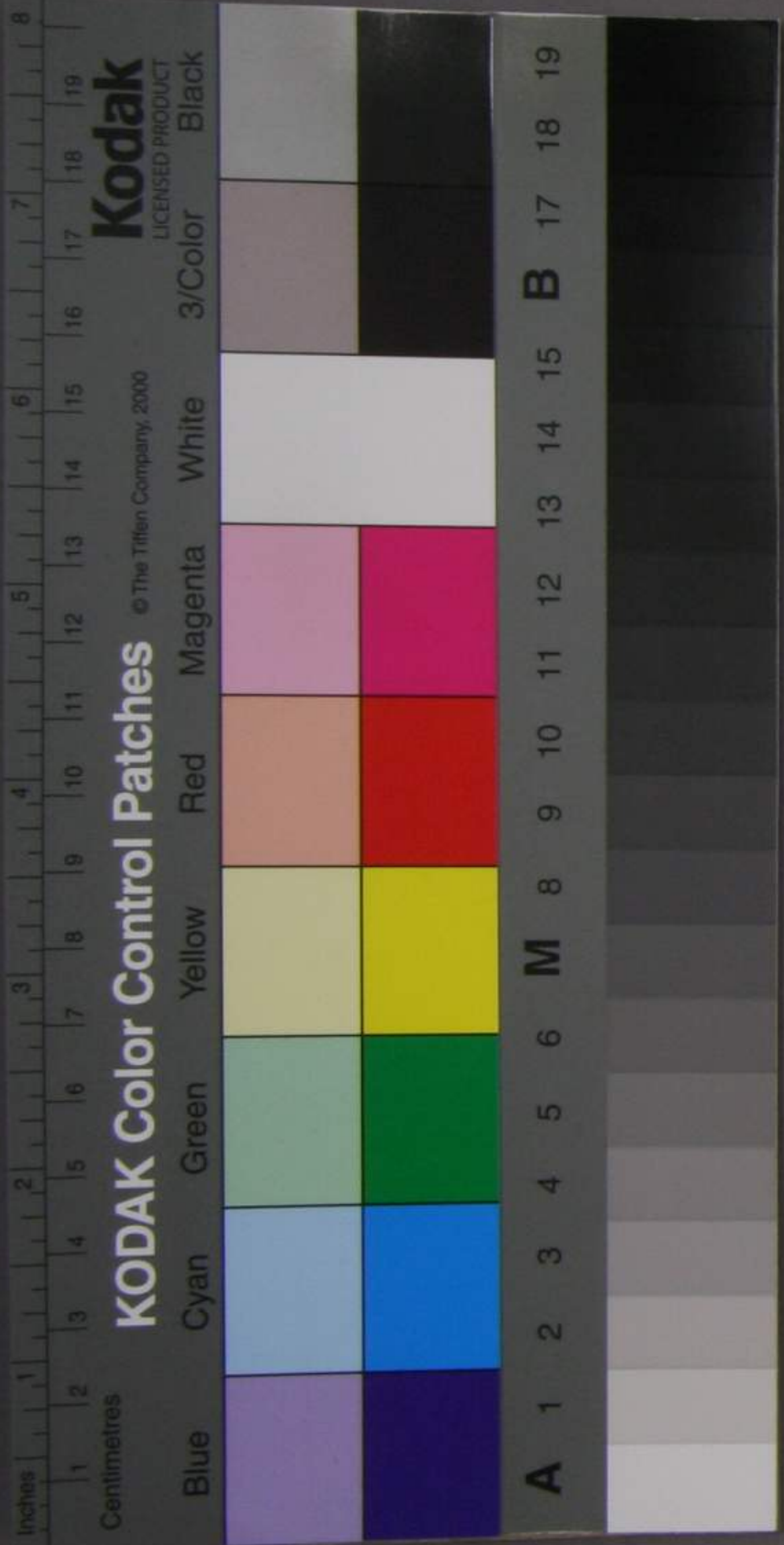
414  
A 1542



一月十五日メール抄譯

是ヨリ先キ三年ノ間日本帝國會計豫算ノ年ニ其体裁ヲ異ニスルハ蓋シ現任大蔵卿未タ從來ノ書式ニ安セサル所アリテ頗リニ之ヲ改正スルニ意アルヲ觀ルヘシ吾人知ル所ノ如ク日本政府ニ於テ歲計ヲ公布シ其出納ノ模様ヲ世ニ示スハ尚近來ノ事ニシテ加フルニ維新ノ大變ノ後其計算ノ乱雜統緒ナカリシト亦想フ人シ蓋シ此大變ノ後其用フル所ノ方法ハ往日諸藩ノ中ニ行ハレタル混沌不明ノ陋法ヲ推擴シテ直チニ全國ニ移用セシモノニシテ加フルニ其計算ノ大ヲ加ヘシニ因テ益々其混沌ヲ甚シクセント疑ナシ例之ハ此ニ一高アリ其營業ノ未タ盛ナラサルニ當テハ簡易ノ簿記法ヲ用ヒテ以テ其出納ヲ整頓スルニ足ルヘシト雖凡稍其

大正十一年四月



業盛大ナルニ及テ其簿記亦繁雜ナラサルヲ得ス  
是ニ於テカ主簿其人ヲ得レハ百般ノ會計秩然序ノ  
リテ用ニ随テ其模様ヲ窺フヘク若シ其人ヲ得サレハ  
混乱復々出納ヲ觀ル可カラス況ニヤ歲計更ニ繁劇  
ヲ加フルニ至テハ主簿タルモノ、任務亦益々難シ是  
ヲ以テ主簿ノ職ハ以テ大イニ才幹ヲ顯ハスヘキノ要地  
ニ非スト雖氏蓋シ亦人生幾箇ノ長技ヲ兼ヌルモノニ非  
レハ能ハス故ニ入アリ忍耐勉強ニシテ事理ニ透入スルノ  
識力アリ乱緒ヲ統理スルノ才辨ワリ知リ且周密謹  
厚ニシテ整肅ヲ愛スルノ性ヲ以テシテ能ク至大ノ財  
政ニ任シテ壅滯ナル所ナカラシメハ其人ハ稱シテ有用  
ノ器ト為スヘシ蓋シ此ノ如キ人ハ略々國ニ主タルヲ得  
ヘシト雖氏一國ニ主タル人ニ必ラス此人ヲ得ルニ非レハ

獨リ其仁愛慈惠ヲ以テ國ヲ治ムルヲ能ハス古來大家  
傑ト稱セラレテ一世ヲ震動セシモノハ皆此數長ヲ兼  
有セサルモ、ナシ仁柔ハ時ニ或ハ美德タルヲ、然  
レ氏仁柔ニ偏スルハ決シテ大國ニ主タルヲ得サル  
ナリ故ニ日本ノ歲計ノ如キモ其速カニ完好ノ地位ニ  
至ラントハ固ヨリ深ク希望スル所ナレ氏其今日ニ至  
ルマテ幾次ノ変更ヲ經テ未タ一定ノ体裁ヲ得サルモ  
決シテ深ク咎ム可カラス他日一タヒ至良ノ体裁ヲ得  
ル時ハ必ラス之ニ準據シテ他ノ百課ノ計算ヲ整頓ス  
ルニ至ラン是ノ如クニシテ地方ノ會計全國一致スルヲ  
得ハ之ヲ全國ノ總計ニ編入スルニ當リ毎各々其所  
ヲ得テ漸々ク詳明ヲ致スニ至ルヘキナリ  
豫算附スル所ノ例言中今回又其体裁ニ於テ幾條ノ

變更アルヲ以テ而シテ其變更ノ首タル者ハ即チ會  
計年度ノ改正ニシテ從來其曆年ノ期ヲ同シクセシ  
モノヲ改メテ甲年ノ七月一日ニ起リ乙年ノ六月三十  
日終ラシタルナリ此事ハ是ヨリ先キ同年四月二十日  
ノ豫算例言中豫シメ公告スル所ニシテ此豫算ノ出  
テシハ即チ實ニ此變更ノ地ヲ為セシ者ナリ故ニ前  
回ノ豫算ハ千八百七十五年一月ヨリ同六月ニ至テ  
終リ今此ニ載スル所ノ豫算ハ年ヲ跨ヒテ同年七月  
一日ヨリ七十六年六月三十日ニ終ラシメ其間  
可カラサル者ニ改革ニシテ是ヨリ先キ一歳ノ經費ヲ  
支給スル者ニ幾分ハ必ラス別年ノ收入ニシテ其  
會計ニ便ナラス然ルニ今回ノ改正ニ因リ十二ヶ月間  
ノ會計稍々其實入ヲ以テ實出ヲ支フルニ近キヲ得

タリ然レモ此改正ニ據ルモ未タ全ク全年ノ出納ヲ  
完結スル難ハス其然ル所以ノ理ト之ヲ救正スル所  
以ノ法トハ云ヒテ例言中第一款ノ第三段及第二款  
ニ在リ又其款末全歳ノ實算ハ尚別ニ公布スルアラン  
ヲ云ヘリ然レハ余輩他日ヲ待テ此豫算ノ改正  
ヲ得タリシヤ否及各省果シテ嚴ニ之ヲ履行セシヤ  
否ヲ見ルヲ得ヘキナリ之ヲ要スルニ豫算ノ体裁漸々  
將チニ其宜キヲ得ルニ庶カラントス  
上文述フル所ノ故ヲ以テ往歳ノ諸豫算ヲ取テ詳細  
ニ今回ノ豫算ト相照比スレハ其間大ニ相差異スル  
モノアリ是ヲ以テ今回ノ豫算ハ獨リ今回ノ豫算ニ  
就テ熟讀セサル可カラズ而シテ之ヲ熟讀スルニ於  
テ之ヲ例言ニ相照シテ發明スル所少カラス故ニ讀

者必ラフ例方口怨ス可カ  
又此豫算ヲ逐條細查スルニ當テ教諭ノ宜シキヲ贅  
スヘキモノアリ今之ヲ左ニ陳ス  
第一地稅ノ收入千八百七十四年ノ計算ニ於テ八四千  
四百六十万圓ニシテ今回ハ其額五千百五十万圓アリ  
是レ固ヨリ其年ヲ異ニスト雖凡然レ凡尚此大差アリ  
ルハ豈ニ考究セサル可カラサル者ニ非スマ是レ蓋  
シ賦稅ノ重ヲ加フルニ由ルカ或ハ年ノ大稔ニ根スル  
カ或ハ米價ノ貴キニ由ルカ其源必ラスニ由ルニ居  
ルヘシ然レ凡今此増額ノ其第一源ニ由ラシハ益シ  
必ラスナキ事ニシテ目今地租ハ既ニ其重ヲ極メ  
カフルニ今マ政府ハ士族ノ俸ヲ削リ或ハ其不卒ヲ  
鎮服スルニ於テ其依頼スル所ハ竊カニ農民ニ在リ

故ニ其稅歛ヲ厚クシテ以テ其怨ヲ活フハ政府ノ  
失シテ為サレ所ナリ其第二源ニ到テハ政府其益  
ヲ受クルハ賦ニシテ昨秋ノ豊熟ハ迥カニ古モノ  
外ニ在リ其口地方或ハ歉乏ヲ訴フルモノナキニ非  
スト雖凡全國ヲ以テ之ヲ概スレハ其收稅ノ一ナル  
疑フ可カラス然ルニ地租ハ之ヲ其田地ニ課セス之  
ノ其成穀ニ課スルヲ以テ年豊ナレハ政府ノ入モ亦  
大ナリ又米價ノ貴賤ニ就テハ蓋シ聞ク今回ノ穀價  
ハ是ヨリ先キ三歲間全國ノ米價ヲ取テ其中ヲ折シ  
以テ定ムル所ニシテ一斛四圓四十九錢ナリト云フ  
然ルニ此大熟ノ後ニ在テ此穀ノ憑依スヘキヤ否ハ  
稍疑ヲ容ルヘキ者ニシテ此豫算ヲ議スヘキ者ハ正  
ナリ此ニ在リ然レハ吾曹又之ヲ聞ク政府大ニ其

儲穀ヲ輸出スルハ米穀或ハ其市價ヲ保モツコトアルモ未タ測ル可カラス現今政府其儲穀ヲ沽ルニ固ヨリ四圓四十九匁ノ高價ヲ得ル能ハサルヘシト雖氏又必ラス之ニ由テ市價ノ下落ヲ維持シテ政府ノ入ヲシテ減セサルヲ得セシムヘキナリ然レ氏此前年ノ大熟ニ由テ全國大ニ其益ヲ蒙ムルトセハ亦大ナル謬見ニシテ國民ハ唯暗々ニ少シク其益ヲ蒙ムルト言フニ過キス蓋政府儲穀ヲ輸出シテ得ル所ノ金額ノ國政之ヲ他ノ租稅ニ充テシムルヲ免カレバ昂<sup>此蒙原義</sup>昂<sup>分明ナラス</sup>獨リ農民ヲ除クノ外他ノ國人ハ其物品ノ價騰貴スルカ為メニ寧ロ害ヲ蒙ルルコト多シ從來日本ニ於テハ米穀ノ大權ヲ歸シテ政府ノ中ニ在リ而シテ將來ト雖氏此權ノ政府ヲ去

ルハ尚幾年月ヲ要スヘシ近來地租ヲ納ルニ其現品ヲ以テセス金貨ヲ以テスルノ法起リシヨリ此權大ニ殺クト雖此新制ノ全國ニ普及スルハ尚幾年ノ後ニ在リ之ニ充タフテ道路ノ便ヲ開カサル可カラス田舎ト市府トノ貿易ヲ盛ニシテ僻陬荒<sup>ハ</sup>荒<sup>ハ</sup>テ貨幣ノ流通ヲ周チクセサル可カラズ目今此權尚頗<sup>ル</sup>強ニシテ政府會計ノ便ニ因リテ之ヲ濫用スルコト尚久シク止マサルヘシ畢竟此權ハ以テ國ノ開化ヲ測リ財政ノ得失ヲ測リ又貿易ノ自由ヲ測ルヘキ尺度ニシテ他日其衰替ヲ以テ此三美事ノ進捗ヲ占ナラヘキ者ナリ

華士族家祿ノ全額千八百七十四年ニ在テハ千九百四十八萬四千圓ナリシモ今四十年僅カニ千六百三十

四万圓ニ過ク此金額ノ減ハ蓋シ一分ハ彼二百  
四十万磅ノ公債ヲ募テ以テ創建タル家祿買上ノ  
策漸ヤク其効ヲ顯ハスニ由ルナリ本年ノ計算中ニ  
ハ去年七月日前奉還出願ノ者ニ備フル資金五百萬  
圓アリ是ヨリ先キ去年四月ニ至ルマテ此賜金ノ全  
額既ニ百六十万磅アリ今回ノ額ヲ合算シテ募借ノ  
原額ニ超ユルト既ニ若干ナリ此策ノ良策タルトハ  
余ノ曾テ屢言フ所ニシテ其條例ニ至テハ稍苛酷ニ  
涉ルモノアリト雖モ其大体ニ於テハ計行ルニ  
ト曰ハサル可カラズ又表中掲クル所ヲ觀ルヘシ士  
族ノ未タ家祿ヲ抛タサル者其稅ヲ課スル極ニ刻  
ニシテ士族政府ノ壓制ヲ受クル亦甚タシト謂フヘ  
シ然レモ後來歲出入ノ能ク其宜シキヲ得ルハ必ラス

大イニ此贅祿ノ止ムト否トニ關スルトニシテ全國財  
本ノ蓄積モ亦大イニ之ニ關スヘシ  
三菱會社貸下ケ金ニ八十一万八千圓ノ一欸マテ年  
備及貸出金ノ長中之ト對スヘキ條欸フルヲ見ス是レ  
蓋シ政府貸出金今二百五十九万四千八百圓ノ  
巨額中之ヲ合算スルモノナルヘシ此段編者蓋シ原表  
誤解スルナラン  
表ニ據テ之ヲ觀ルニ公債ノ額多キヲ加ヘスシテ而シテ  
準備モ亦金額ノ減スルヲ見ガルハ慶賀スヘキノ事  
ナリ但近來貨幣日々ニ濫出シテ而シテ其政府ノ手  
ニ出ツル者多シ居レハ準備ノ金額中之ヲ前ノ豫算  
ノ時ニ比スレハ恐ラクハ真貨ヲ減シテ楮幣ヲ多クスル  
者アラシ余ヲ以テ之ヲ觀ルニ日太人民ノ真貨ヲ貴ト  
シ楮幣ヲ賤ムヲ知ルニハ尚多クノ歲月ヲ費ヤスヘ

ク銅貨ハ蓋ニ速カニ流通スヘシト雖氏金銀二貨ハ却  
テ然ラサルヘシ諺ニ曰ク收入能ク心ヲ引テ水ニ入ラ  
シムヘシ然レ馬自カラ飲マント欲スルニ非レハ之ヲシテ  
水ヲ飲マシムル能ハスト此語果シテ信ナリ政府能ク貨幣  
ヲ造テ人民ニ  
附スヘシ然レ其之ヲ用フル  
ト否トハ人民ニ在リノ義  
去年ノ間日本會計ノ事ニ就テ種々ノ紛論アリト雖氏  
今日能ク其國ノ義務ヲ盡シテ漸ヤク巨大ノ負債ヲ  
償ナレバ〔措幣及外債〕別ニ巨額ヲ分テ不虞ノ歎ニ備  
フルノ餘裕アルヲ見ルハ亦喜フヘシ然レ公臣  
此豫算ヲ確信シテ表中載スル所他日皆悉ク其安ニ  
合セント云ニ非ス此一事ニ至テハ政洲ノ理財家  
ト雖氏尚其計算ヲ誤マルトアリ故ニ余ハ唯其曾テ  
日本豫算ニ置ク所ノ信ヲ取テ之ヲ今日ノ豫算ニ置

クノミ然レ臣余ヲ以テ之ヲ觀レハ事体尚宜キヲ得テ  
時々或ハ顛蹶アリト雖氏之ヲ概スルニ尚進歩ノ像ア  
リト言ハサレテ得ス此等ノ算ヲ舉ケテ皆是レ如ク空  
ノ妄算ナリト言ハシハ豈ニ亦誣タルニ非スマ凡ソ事ハ  
必ラス初メニ喜フヘキカ如クニシテ後ニ其過スル者  
多シ然レ臣近來數年ノ豫算ヲ歷觀スルニ皆其鑿々々  
ル原據アルト其會計ノ模様ヲ掲記シテ略々隱秘スル  
所ナキト共ニ入ラシテ年コトニ其信ヲ増サシムルモノ  
アリ抑近來豫算ノ發行アリシニ由テ日本ノ大ニ信ヲ  
外國ニ取リシハ毫モ疑ヲ容レス又其計算ニ憑依スル  
ノ近コト深キヲ増シタルモ亦疑ヲ容レサル所ナリ  
然レニ日本他日實算ヲ發行シテ其數今回ノ計算ト  
畧相符合セバ此憑依益々固クシテ而シテ其信ヲ外

邦ニ得ル亦益深カルヘシ凡ソ會計ノ長官タル者ハ其  
方策亦多シト雖凡之ヲ要スルニ其財政ヲ毫モ隱匿  
スル所ナク公然廣示スルノ稱譽スヘキニ若カス日本  
行政ノ費ハ未タ方外ト言フヲ得サレ凡蓋シ亦多費  
ノ國ニシテ其冗費ノ由ル所ハ一ニハ一大厄介蓋シ華士族  
ヲ斥ス  
ヲ負フニ在リ一ニハ吏胥ノ非常ニ冗多ナルニアリ一  
ニハ吏胥ノ冗多ナルヨリ自カラ苞苴私曲ノ弊行ハ  
ル、ニ在リ然レ凡亦朝廷ノ費途濫ヲ極ムト云フ可  
カラス又大臣ノ俸給過多ナリト云フ可其居  
宅及平常生活ノ模様ヲ察スルニ亦土耳其埃及ノ驕  
奢ノ跡ヲルヲ見タ彼ノ万國ノ品位評定ノ地タル政  
洲ノ人ヲシテ之ヲ聞カシムルモ亦多ク愧ヅル所ナ  
キナリ

概シテ之ヲ論スルニ年々ノ豫算皆曾テ吾曹ノ期スル  
所ニ超エ外人ノ之ヲ信スルモ亦年々遂テ益々厚シ  
唯此上ニ望ム所ハ愈々此表紀ノ法ヲ改正シ愈々此  
計算ノ数ヲ精覈ニシテ今ノ之ヲ信スル者ヲシテ他  
日失望スルヲナカラシメンノミ



